

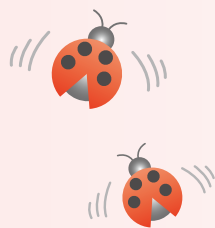
済生会は医療連携を通して、地域の診療所と共に皆様の健康をリレーします。

Baton

地域医療連携室だより

春号
vol.64

平成25年4月10日発行



TOPICS

- P2 【特集】
2013年度
アクションプランについて
- P4 登録医紹介(KOYANAGI真柄CLINIC・きんとう整形外科クリニック)
- P6 職場探訪(医事課・病歴室)
- P7 がん診療セミナー2013・第7回医療連携総会 開催報告
- P8 インフォメーション

地域医療支援病院 臨床研修病院 地域がん診療連携拠点病院

 済生会新潟第二病院・地域医療連携室

新潟市西区寺地280-7 TEL 025-233-6182 FAX 025-231-5763

<http://www.ngt.saiseikai.or.jp>

2013年度アクションプランについて

地域医療支援病院は、地域の診療所・病院との医療連携を通じて、医療機関相互の役割分担を推進する使命があります。

先に国が示した、2025年への「病院・病床機能の分化と連携強化、在宅医療の充実」においては、まさに連携が最重要課題と位置づけられます。

当院はこの方向に沿って、地域の連携体制整備に尽力していかねばなりません。

今回は、2月23日に開催いたしました医療連携総会にて報告いたしました内容を中心に、当院の次年度アクションプランと地域医療連携室(以下、連携室)のアクションプランを掲載いたします。

病院アクションプラン

当院が地域医療支援病院に承認されてから11年が経過しました。この間地域の医療機関との連携を密にとり地域完結型の医療を進めてきました。当院は今後とも急性期病院としての機能を維持し地域医療に貢献したいと願っています。この度当院職員の年間指針となるべき2013年度のアクションプランを作成しました。地域の先生方にご理解・ご協力をいただきたい事項がありますのでご説明します。

入院患者の確保と受入体制の構築

急性期病院の使命は重症～中等症の患者さんの診療にあたることです。即ち入院治療・手術・精密検査などを中心に診療をすべきであり、これらに関連する施設設備を重点的に整備します。また入退院に関する業務を見直し地域の医療機関との良好な連携体制のもとに入院期間の短縮化を目指します。

外来の専門化と機能分担

前述の診療を充実させるためには、外来診療の負荷を軽減させる必要があります。病状の安定した症例は地域の先生方にフォローを依頼します。残念ながら今まで有効な対策がなされず外来患者数は減りませんでした。連携室の機能をさらに充実させ逆紹介数を増加させることを継続して行います。また紹介患者さんを優先した外来診療体制の構築が望まれますので完全紹介予約制の導入を視野に入れて検討します。

当院が地域医療で貢献できる分野は入院・手術であること。そのためには、地域の先生方から患者さんを紹介していただかないと実現できないこと。この2点を常に思いながら日々の診療を行うよう職員に指導します。先生方の一層のご支援をお願いします。

済生会新潟第二病院 院長 吉田俊明



戦略テーマ 入院患者の確保と受入体制の構築

戦略目標 上半期稼働率の向上

- ① 新規入院患者の増加
- ② 救急患者・紹介患者の増加
- ③ 入・退院センター設置による一元管理
(入院決定段階での介入)
(入院に伴う業務の効率化)

戦略テーマ 外来の専門化と機能分担

戦略目標 外来機能の高度化、専門化

- (初診増加、単価上昇、再診回数減少)
- ① 逆紹介率の向上
 - ② 検診センターからの要検査者の増加

戦略テーマ **顧客ロイヤリティの獲得**

戦略目標 **診療の質向上**

戦術

- ① 医師確保
- ② 職員・患者満足度向上
- ③ 至急検査のオペレーション整備
- ④ 施設設備の更新

戦略テーマ **財務基盤の安定化**

戦略目標 **収支構造の見直し**

戦術

- ① 経費の削減
- ② 紛失・修理金額の削減
- ③ ジェネリックの導入
- ④ 将来投資を見据えた利益確保対策

連携室アクションプラン

病院のアクションプランを受け、当連携室のアクションプランを下記のとおりお示しします。2013年度は、地域医療支援病院としての原点に立ち戻り、「紹介・逆紹介の徹底」と昨年に引き続き疾患別連携のツールとなる「地域連携パスの推進」、そして地域との連携体制強化となる西区を中心とした「地域連携ネットワーク構築と強化」を掲げます。



地域医療連携室室長 齋川克之

利用者

活動テーマ

- かかりつけ医が満足する地域連携の構築

具体的活動

- 院内職員への地域医療支援病院としての意識強化
- 逆紹介の強化
- 訪問活動の強化

財務

活動テーマ

- オープンシステムでの紹介件数増加

具体的活動

- 紹介を断らない体制強化(病床の有効活用)

質・プロセス

活動テーマ

- 医療機関相互の役割分担推進のためのシステムづくり

具体的活動

- 地域連携パスの運用体制強化
アンケートや意見交換会を踏まえた地域連携パス構築
- 新潟市西区における地域連携ネットワークの構築
在宅医療の後押し、病病連携の体制強化
(地域全体で支えあう仕組みづくり)

刷新

活動テーマ

- 連携室の役割再確認
- 連携実務担当者としてのスキルアップ

具体的活動

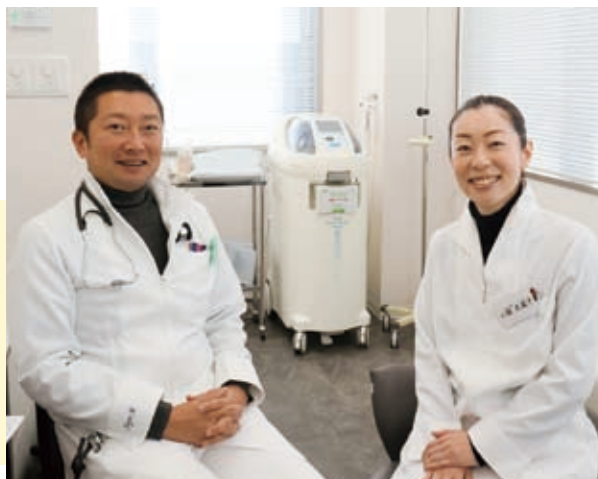
- 医療連携協力機関マップ(リーフレット、パネルなど)リニューアル
- 済生会学会、日本医療マネジメント学会などの学会発表
- 医療福祉連携講習会への参加
- 医療連携先進地域、病院への実地研修

さいごに

地域医療支援病院は、地域の連携体制をコーディネートする役割があり、連携室は、その中枢として機能を発揮しなければなりません。自院の役割を示し、連携医療機関との信頼に基づいた連携体制を構築し維持すること、また地域全体を見据えた連携コーディネーターの役割を担っていくことが我々に課せられた使命です。連携医療機関の先生方をはじめ関係職種の皆様方には、これからもご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。



オープンシステム



KOYANAGI真柄CLINIC

内科・循環器内科・呼吸器内科

こやなぎ りょう こやなぎ くみこ
小柳 亮先生・小柳 久美子先生



専門領域

循環器内科・呼吸器内科・内科一般

医師・医院PR

2012年8月1日に大通り団地前に内科のクリニックを開設させていただきました。院長 小柳 亮（こやなぎ りょう）と副院長 小柳 久美子（こやなぎ くみこ）が二診体制で診療を行っております。（水曜と金曜日は一診体制となります。）

駐車場は約40台あり、医院入り口には車寄せがありますので、風雪がきつい冬、暑い盛りの夏問わず快適に来院していただけます。院内には段差が無く、土足での出入りですので、お身体の不自由な患者さんにも来院しやすくなっています。内装は明るい白で統一し、職員も皆明るく、笑顔の絶えない温かい医院です。

1. お話を良く聞かせていただく事
2. ていねいに診療する事
3. わかりやすい説明をする事

を心がけています。

専門領域にとらわれず、検診も含めてまずはなんでもご相談下さい。

KOYANAGI真柄CLINIC
 内科・循環器内科・呼吸器内科

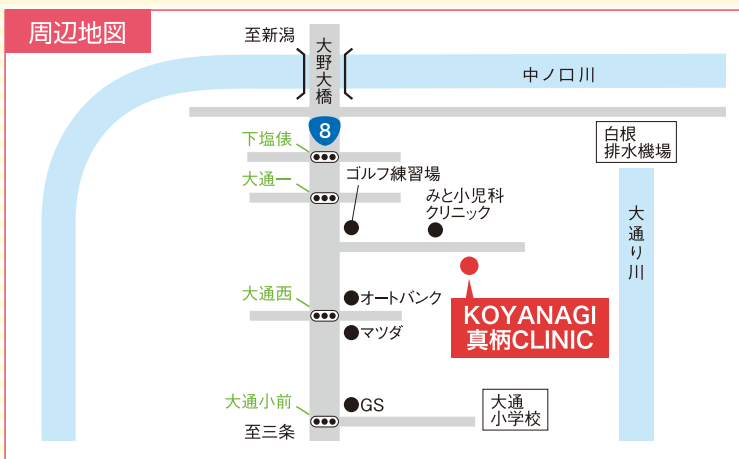
〒950-1407

新潟市南区鷺ノ木新田5724-1

☎025-377-2011

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00 <small>(受付終了12:00)</small>	○	○	○	○	○	○
15:00~18:30 <small>(受付終了18:30)</small>	○	○	○	×	○	×

◎休診日／木・土曜午後 日曜祝祭日



登録医訪問

きんとう整形外科クリニック

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科

きんとう なおき
金藤 直樹 先生



専門領域

脊椎外科・骨粗鬆症・関節リウマチ

医師・医院PR

クリニックのコンセプトは下町の絵本館。ちょっと広めのフローリングの待合室に、葉祥明、アンドレ・ダーハンなど国内外の絵本作家のリトグラフが並んでいます。お待ちいただいている時間も、くつろいでいただけるように心がけています。診療は整形外科一般、特に骨粗鬆症と関節リウマチの治療に力を入れています。創傷処置は開院時より被覆材を治療に取り入れ、できるだけ痛みなく、きれいに治るよう努めています。



きんとう整形外科クリニック
整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科
〒950-0036
新潟市東区空港西1-19-5
☎025-272-8800

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~13:00	○	○	○	○	○	○
15:00~18:30	○	○	×	○	○	×

◎休診日/水・土曜午後 日曜祝祭日





当院の部署を

職場探訪

紹介します!

職場探訪は、院内報MINDに毎月掲載しているコーナーです。地域のみなさんにも紹介させていただきます。

医事課

医事課の業務は、受付、会計業務、外来・入院業務、外来カルテ業務のほかに未収金業務、届出業務、統計業務等多種多様です。

前回掲載から4年経ちましたので、医事課の1か月の業務サイクルを中心に紹介させていただきます。

月初めは、毎月10日が前月分の医療費の請求の締切りのため、レセプト作成作業を行います。レセプト作成作業は病院の収入に直結するので、コスト漏れや記載不備等による減額がないように医師と共同で点検を行います。

月も中旬になると、前月の統計が出ます。データを利用して収入の分析を行い、どこが良くて、どこが悪かったのか分析を行います。未収金の督促作業もこの時期に重点的に行われます。また、月1回の医事課内の会議もこの時期に行われ、様々な項目を分析・検討し、今後の方針を決定します。

月末には、レセプト提出のための入院患者の会計入力作業や届出業務等を行います。このようなサイクルの間でも、各部署から突然データの抽出依頼が殺到します。



そして、ふと気がつけば、月が変わっているというような感じです。これからの医事課は豊富なデータを活かして、データの加工や分析を行う、情報発信基地としての役割が求められます。

医事課は20代の職員が多く、若いエネルギーがあふれています。若さを武器に、病院の経営に貢献していきたいと考えています。

また、医事課は最初と最後に、患者さんと接する窓口ですので、親切・丁寧な接遇をこころがけていきたいと思えます。

(医事課 齊藤雅克)

病歴室

病歴室は、昨年10月より医療情報部所属となり鈴木靖医療情報部長の下、職員、依託職員あわせて6名で業務を行っています。

主な業務としては

- ①入院カルテ・フィルムの管理業務
 - ②入院カルテのコーディング業務
 - ③がん登録業務
- を行っています。

①入院カルテ・フィルムの管理業務

退院後病棟から下りてきた入院カルテを定められた綴り順で製本し不備がないか点検を行い受領処理をします。貸出依頼が来たときにはアリバイ登録をし貸出をします。返却予定日を過ぎた貸出カルテの督促業務も行っています。

②入院カルテのコーディング業務

入院サマリーや診療経過等から病名や手術等の情報をひろい、国際疾病分類(ICD)と呼ばれるコードをつけシステムに登録します。疾病統計や調査等が来たときに情報の活用・分析を行います。入院サマリーについては毎月2週間以内サマリー完成率を集計し先生方に配布さ



せていただいています。

③がん登録業務

がん診療連携拠点病院の認定要件である院内がん登録業務を行っています。合わせて新潟県へ地域がん登録の提出も行っています。また年に1回国立がんセンターから院内がん登録の全国集計が公表されるため、集計資料を作成し院内Web上に掲載しております。

このように病歴室では様々なデータを登録・集計し、医療の質の向上や病院経営に少しでも役立てるよう日々活動しています。

(病歴室 川端沙織)



がん診療セミナー2013・第7回医療連携総会 開催報告

2月23日（土）、新潟グランドホテルにてがん診療セミナーと医療連携総会を開催いたしました。

* * *

【第1部】のがん診療セミナーは『家族性腫瘍の遺伝カウンセリング』と題し、新潟大学医歯学総合病院生命科学医療センター センター長 中田光先生と副部長 田澤立之先生からそれぞれご講演いただきました。『遺伝カウンセリング』とは、遺伝性疾患を持つ患者さんやその家族に遺伝的見地からの適切な検査や、検査で得られた結果をもとにカウンセリングを行い、必要に応じて専門医師によるケアの方法や社会資源の情報提供など、広く支援していく方法です。お二人のご講演のあと、実際に遺伝カウンセラーである後藤 清恵先生から遺伝カウンセリングのロールプレイを披露していただきました。講師の先生方がそれぞれ患者、家族、医師、カウンセラーの役を演じ、カウンセリングの最終目標である、相談者が自身に関する問題を適切に理解し、自律的に決定していくよう支援していく過程を見ることができました。



* * *

引き続き【第2部】は医療連携総会を開催。「2013年度の病院アクションプランと医療連携について」と題し吉田院長より、一層の診療の質向上、各科外来の専門化と機能分担、入院患者の受入態勢の構築、などのテーマを基にした2013年度の病院の方針について報告いたしました。また、連携室 室長 斎川より「医療連携の実績報告」を行いました。他の医療機関から当連携室を通じてご紹介いただく患者さんは年々増加しています。地域医療支援病院である当院が果たすべき使命を十分に認識し、地域に開かれた病院であるよう、当連携室も病院と地域をつなぐ窓口として努力してまいります。

(齋藤 浩生)



新規登録医紹介

医院名	診療標榜科目	住所	登録医名
坪田医院	内科・小児科	新潟市秋葉区車場4-11-68	坪田 孝文
ごとう内科消化器科クリニック	内科・消化器	燕市吉田神田町9-5	後藤 俊夫

※H25年3月26日現在、登録医総数は398人です。

臨床検討会開催のお知らせ

第179回臨床検討会

日時 平成25年4月23日(火) 19:00～

会場 済生会新潟第二病院10F会議室

担当 耳鼻咽喉科



第180回臨床検討会・特別例会

日時 平成25年5月21日(火) 19:00～

会場 済生会新潟第二病院10F会議室

担当 新潟大学大学院医歯学総合研究科
生体機能調節医学専攻
内部環境医学講座 小児科学分野 教授
齋藤 昭彦 先生

連携医療機関のみなさま

表紙を飾ってみませんか？

引き続き、表紙を飾っていただける写真を募集しています。
ご自慢の写真はありませんか？
お問い合わせは、地域医療連携室までお願い致します。



編集後記

桜の季節を迎えました。春の桜開花前線。日本ならではの風流な季節予報です。桜の開花は農作業の準備の目安、紅葉は冬支度の始まりというように、昔から生活に溶け込んだ自然ゆえ、今日でも、「さくら」の3文字を聞いただけで春の訪れを感じます。今シーズン、西日本や関東地方ではすでに満開を迎えたようですが、新潟の開花予想は4月10日頃。みなさんはどちらでお花見ですか？

(大澤 希美代)

